

「大滝集落に架かる橋」参考資料（解説）

大滝会特別会員 鹿摩貞男

【編集：HP 管理人 紺野 文英】

1. 大滝集落内の最初の橋梁は明治時代に建設された

大滝集落内の橋梁として紹介している 6 橋、**葭澤橋・大滝橋・いら沢橋・入イラ澤橋・胡桃橋・西川橋**の各橋は、大滝集落の成立した明治 10 年台前半には架設されていたと考えられる。県庁文書『萬世大路事業誌』（明治 14 年、福島縣土木課編）のによれば、上記 6 橋を含む中野新道（起点：現福島市上町道路元標～終点：旧栗子隧道福島側坑口まで約 L=29.8 km）の大小 23 箇所の橋梁は「明治 10 年 10 月に着工し、明治 14 年 6 月に竣功した」と記録されている。この中野新道（万世大路）の開通は明治 15（1882）年 10 月 3 日である。当時いずれも木橋（橋面土橋）で、幅は各橋とも 3.5 間（6.4 m）、長さは葭澤橋と胡桃橋が 10 間（18.2m）、西川橋が 8.5 間（15.5m）、大滝橋といら沢橋が 6 間（10.9m）、入イラ澤橋が 2 間（3.6m）である。各橋個別の竣功（着工）年月は分からない。

これらの橋梁とそれが架かる河川名・沢名等の状況を前掲書の「雑記之部」（以下『中野新道記』と云う）は次のように記録している。少し長くなるが下記に引用する。『中野新道記』は、中野新道の終点である旧栗子隧道福島側坑口から、起点である旧福島町 11 丁目元標（現福島市上町道路元標）に向かってルポルタージュ風に書かれている。その内下記に引用したのは、大滝集落を含んで旧新沢橋から旧大鍋橋までの区間約 3 km 程度である。

「・・・（前略）一ツノ屈曲アリ俗ニ之ヲ大曲リト云フ。之ヲ遶リテ新沢アリ、流水小川ニ灌グ。之ニ架スルヲ**新橋**（新沢橋）ト云フ、延長八間、幅員三間半。橋前ノ西北ハ巨岩ヲ除ク。（中略）数歩ニシテ忽チ新橋ニ接シテ**瀧橋**アリ、延長六間、幅員三間半。橋前ノ岩石ハ**犖确**（大石の多いさま）ニシテ**椎鑿**ヲ受ケス（ツチやノミは齒が立たない）。（中略）日向暗隅沢アリ、流水小川ニ入ル。橋アリ日向橋ト呼フ、延長老間半、幅員三間半。是ヨリ拾壺町五拾四間（約 1.3 km）ニシテ**西川**アリ、下流小川ニ入ル。之ニ架スルヲ**西川橋**ト云フ、延長八間半、幅員三間半。二ツ小屋ヨリ茲ニ至ルノ間**寛カナル**下リニシテ悉皆（ことごとく）中野村ノ官有地ヲ潰シタルモノナリ。是ヨリ**胡桃平**（長老沢）、**大瀧**（大滝）ノ間較平夷ナリ。（中略）

左側ニ二戸ノ室屋アリ（宿屋の意味もあるという、宮内屋（高野家宅）・中屋（渡辺家宅）を指すものか）。是則チ新道ノ便ナルヲ覺リテ早く己ニ茲ニト居シタリ。是ヨリ大瀧ニ到ルノ間地味頗ル膏腴（肥えている）概ネ拾町歩ノ耕地ヲ闢クヘシ。川アリ小川ト云フ。新道中ニハ之ヲ第二ノ大川トス。水源ハ西北隅日ノ峠ニ**濫觴**（物事の起源）シ南ニ向ヒ**紆餘**（うねりまがること）トシテ下リ、又屈折シテ東ニ向ヒテ下ル。（中略）之ヲ横断シテ架スルヲ**胡桃橋**ト呼フ、延長拾間、幅員三間半。是ヨリ東南山神橋ニ至ルノ間中野村ト大笹生村ノ村界分明ナラス。**入イラ沢**アリ、流水小川ニ注グ。之ニ架スルヲ**入イラ橋**（入イラ澤橋）ト呼フ、延長老間四尺、幅員三間半。又**イラ沢**ハ殆ント之ニ接続ス。**イラ橋**（いら沢橋）ト云ウ、延長六間、幅員三間半。近傍ニ平地多ク三四十ノ家屋ヲ建築スルニ足ルヘシ。（中略）**大滝川**アリ、源ヲ西南ノ滝上山ニ発シ東ニ向テ下ル。其経ル所ノ衆溪流ヲ併セテ小川ニ入ル。之ニ架シタルヲ**大滝橋**ト云フ、延長六間、幅員三間半。

茲ヲ距テル四百八十四間（約 880m）ニシテヤビツ沢アリ、流水小川ニ入ル。之ニ架スルヲヤビツ橋ト云フ、延長弐間、幅員三間半。又鍋越沢アリ、流水小川ニ入ル。之ニ架スルヲ小鍋橋ト云フ、延長六間、幅員三間半。小川ノ流水遶テ又茲ニ出ツ。之ニ架スルヲ大鍋橋ト云フ、延長十間、幅員三間半。（以下省略）」（『福島県直轄国道改修史』所収（112 頁）を県庁文書原文と照合のうえ一部修正し引用。段落・句読点・ルビ・太字・注釈筆者）。

なお、この引用文の中には猪橋と芳澤橋（葭澤橋）とが欠落している。しかし、『萬世大路事業誌』



写真-1 元観光施設「大瀧宿」跡の一部(上)と
擬宝珠風高欄(欄干) H24.06.16撮影

いてははっきり分かるのは、親柱に竣功月日が明記されている 3 橋である。それは、葭澤橋・昭和 53 年 3 月、入イラ澤橋・昭和 9 年 8 月、胡桃橋・昭和 11 年 7 月である。

葭澤橋については、昭和 52 年頃、木橋土橋からメタル（鋼鉄製）橋に架替えられたと聞いている。観光施設「大瀧宿」（個人経営）が盛んで、擬宝珠風の赤い高欄（写真-1）を設置したり、橋の幅員を拡げたとも当時聞いた記憶がある。筆者は、昭和 63 年度当時に大滝集落の入り口付近の現国道 13 号の視距確保のための局部改良工事(国道 13 号大滝橋新設工事含む)を担当(監督)したことがある。その頃は、観光施設「大瀧宿」（写真-1）はかつての盛況は無かったが経営者は健在で、工事に関連してたびたび接触したことを覚えている。

今回、葭澤橋がメタル橋（単純鋼H桁橋）であることを現地にて改めて確認すると共に（写真-2）、桁に取付けられている橋歴板を見てみた（写真-3）。

そこには、1978 年 3 月の日付（橋歴板の日付は通常、橋梁の製作年月を表示）があり、道路管理者である福島市役所において工事を実施したことも確認できた。また、親柱に昭和 53（1978）年 3 月竣功とあり葭澤橋の完成年月を知ることが出来る。

因みに、親柱へ記載する項目や位置は、慣習的に決められている。『道路技術基準』（昭和 36 年 建設省）の解説によれば「我国の習慣上親柱に橋名、河川名、竣工年月日を記入する」が、文字の配置は参考図のようにするのを標準としているようである（861 頁）。

すべての橋梁がこの慣習に基づいて親柱を設置しているとは限らず、当該葭澤橋では项目的には網羅しているものの配置（記入）位置は必ずしも標準通りとはなっていない。余談であるが、大正 14（1925）年 12 月竣功の松齡橋（福島市内阿武隈川に架かる鋼トラス橋 L=175.8m、W=5.5m）も、親柱の配置は葭澤橋と同様である。なお、大滝集落内の葭澤橋以外の 4 橋梁については親柱の記入項目・配置とも習慣に従っていないようである。

の別の所にある橋梁一覧表には両橋とも掲載されている。また『中野新道記』附属書類「新道高低実測圖 徒福島町元標、至栗子隧道口。縦線式千五百分之一、横線式万分之一」（中野新道の道路の縦断方向の高さを表した縦断図のこと）にも、「イノシハシ」「ヨシ沢橋」とあるので、明治時代に 6 橋が架設されたことは間違いない。

2. 現存橋梁について

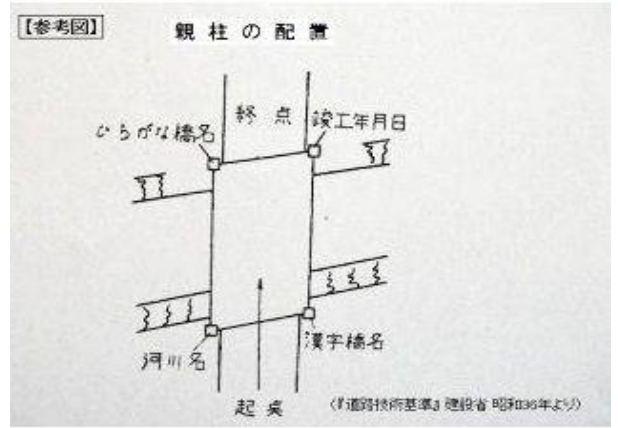
大滝集落内の現存 6 橋のうち西川橋と葭澤橋がメタル（鋼鉄製）橋、他の 4 橋はいずれもコンクリー橋となっている。すなわち明治時代の木橋が架替えられたわけである。その時期につ



写真-2 葭澤橋・単純鋼H桁橋(1978年(53)3月)
H24.06.16撮影



写真-3 葭沢橋・橋歴版
1978年(S53)3月制作・木本工業(株) H24.06.16撮影



参考図 親柱の配置

長老沢地区胡桃橋は、戦前木橋からコンクリート橋に架け替えられているが、当時小学生であった地元大滝住民の方がその工事を覚えておられるので昭和11年7月は確かであろう。大滝橋といら澤橋はいずれも木橋であったが同じ時期の昭和40年代前半(栗子ハイウェイ開通後)に架替えられているようである。高欄(欄干)の構造形式や橋名板の取付け方(橋名の横書き表示など)がほぼ同じである。両橋とも親柱にあったと思われる竣工年月等の名板は持ち去られたものが現在失われていて確認できない。旧いら澤橋については、土橋であったため橋面の傷みが激しかったようで、車のタイヤが時々ハマっていたという。旧大滝橋は、木橋時代に高欄(欄干)の無い時期があったようで、のちに増設されたということである。(以上柁木新吉氏談)。

西川橋については、高欄がなかったということは皆さん印象深かったようで、記憶されておられる方も少なくない。しかし、いつ架替えられたかについては大滝の皆さんも記憶が無いようだ。ただこの橋は、当時の旧万世大路としては、唯一のメタル(鋼鉄製)橋梁であることから、戦後架け替えられた公算が大きい(前記の通り昭和53年3月葭澤橋もメタル橋に架替えられた)。

この6橋については、実のところ現存各橋梁の諸元(橋長や幅など)、構造などが分からないのである。また各橋とも、木橋を架け替えていることは間違いないけれども、それが明治に架設された最初の橋梁であったかどうかは不明である。おそらく最低でも1回は、木橋時代に架け替えられていると考えられる。昭和の大改修区間(現福島市飯坂町中野「新沢橋」左岸～米沢市万世町梓山「滝岩上橋」左岸L=14.4km)において、たとえば旧新沢橋は「延長が20m、幅員5mの木橋土橋」(『福島県直轄国道改修史』建設省東北地方建設局福島工事事務所昭和40年3月、以下『改修史』222頁)と記録されている。明治期初代新沢橋は延長8.0間(14.5m)、幅員3.5間(6.4m)であったことから、現地に下部工遺構のある旧新沢橋(2代目)は架替えられたものであることは間違いない。この2代目と思われる新沢橋の遺構の下部工(橋脚、橋台)は鉄筋コンクリート製であり、明治期初代の木製の橋脚や橋台とは明らかに異なる。

この新沢橋は、たまたま昭和の大改修区間と云うことで前述のように2代目の諸元が記録されていたものである。さらに大改修によって昭和11年12月に竣工し現存している3代目新沢橋の構造諸元は文献(『改修史』222頁等)として記録が残っている(側径間付鉄筋コンクリート拱橋・L=42.0m、W=6.0m)。ところが前にも触れたように、この大改修区間以外については、現存橋梁の工事記録など文献が見当たらず構造諸元が分からないというわけである。旧万世大路のかつての道路管理者は福島県知事であり、それらの工事は福島県庁において実施したものであると思われるので、工事記録等の文献が見つかること期待したい。なお、新国道13号・栗子ハイウェイ開通後(昭和41(1966)年5月)は、旧道の一部について福島市へ市道として移管されているので、その後におこなわれた改築等の記

録は市役所にあるだろう（葭澤橋など）。大滝集落内は、昭和41年5月以降は市道「長老沢線」となっていると思われる（市道認定日は不明）。

ここで「大滝集落に架かる橋」現存6橋を整理しておけば次のようになる。

橋名	明治期初代橋梁（木橋土橋）			現存橋梁（3代目）		
	橋長	幅員	施工時期等	橋長	幅員	竣功月日等
葭澤橋	18.2m	6.4m	明治10年10月～明治14年6月（福島県）	不	不	昭和53（1978）年3月（鋼橋、福島市役所）
大滝橋	10.9m	〃	〃			昭和40年代前半（コンクリート橋、福島市役所*）
いら沢橋	10.9m	〃	〃			昭和40年代前半（コンクリート橋、福島市役所*）
入イラ澤橋	3.6m	〃	〃	明	明	昭和9（1934）年7月（コンクリート橋、福島県）
胡桃橋	18.2m	〃	〃			昭和11（1936）年3月（コンクリート橋、福島県）
西川橋	15.5m	〃	〃			不明（戦後）（鋼橋、福島県*）

注1 （）内は事業主体（*推定）及び橋種

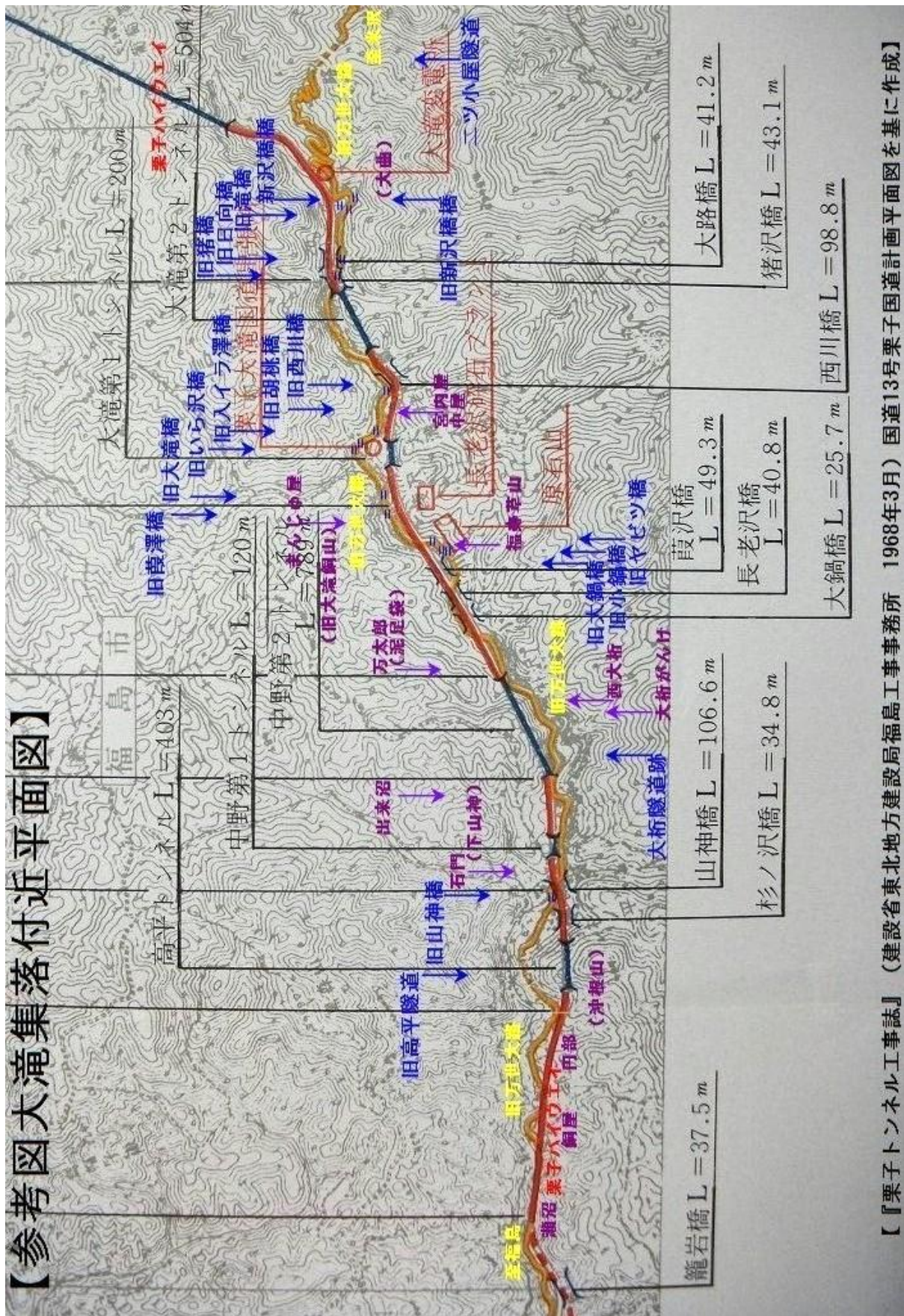
注2 現存橋梁の橋長・幅は、概ね初代橋梁のそれに同じと思われる。

おわりに

大滝集落では、昭和51（1976）年春にはまだ7世帯34名の方々が留まっておられる（『わが大滝の記録』昭和52年1月）。最後の離郷は、昭和54年5月だったという。それから30年以上の月日が流れたとはいえ、それ以前に離郷された方々をも含め大滝集落内の橋梁について、日々の生活と共にあったわけだから、いろんな思い出や写真などがあると思う。是非その記憶を思い出していただき記録に留めたいと思います。今回の報告でも多くの方に教えていただいたことを参考にしています。是非大滝会HPへの報告もしくは筆者宛連絡をお願いしたいと存じます。

次ページに【参考図大滝集落付近平面図】添付

【参考図 大滝集落付近平面図】



【『栗子トンネル工事誌』 (建設省東北地方建設局福島工事事務所 1968年3月) 国道13号栗子国道計画平面図を基に作成】